

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

高付加価値化された観光を活用した人づくり・生産性向上計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道網走郡津別町

3 地域再生計画の区域

北海道網走郡津別町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

- ・北海道の動きとして、観光のリーディング産業化及びガイドの資格化が推進される中で、津別町としても質の高いガイドを育成し自然案内人制度（津別町第五次総合計画）の導入を進め、津別でも観光の産業化を目指したい。
- ・現在行われているガイド事業は、天候や季節に左右されるため、安定した収入が見込めず通年雇用ができない。そのため、ガイド数が限られ来訪者の受入れ数も制限され交流人口の拡大に繋がらない。
- ・地域の子供たちに町の魅力・産業を知る機会が創出されれば地元就職を見込めるが、それを受け入れる体制が整っていない。
- ・道内唯一の森林セラピー基地として認定されているが、そのブランド力を活かす取り組みが実現できていない。
- ・地域の情報を発信する場がないため、町内観光に繋がらず地域経済波及が薄い。
- ・隣接する阿寒摩周国立公園がナショナルパーク化を目指す中で、町民の森自然公園には立寄り拠点がなく、観光ルートに選定されにくいという懸念がある。
- ・通過型から滞在型への観光へシフトしたいが立寄り拠点が無い。
- ・町を案内できる人材がいない。

4-2 地方創生として目指す将来像

北海道網走郡津別町は、北海道オホーツク管内最南端に位置し、人口約4,800人、総面積716.80㎡でその86%を山林が占め、「愛林のまち」を宣言している。基幹産業は農業・林業・木材製造業である。また、阿寒摩周国立公園に隣接し、この

公園や雲海を一望できる展望台や道内唯一の「森林セラピー基地」に認定された森があり、特徴的観光資源を持つ。大きな問題として津別町の人口減少率はオホーツク管内で最も大きく、その影響は、地域経済の縮小、雇用の減少を招き、さらなる人口減少に拍車をかける悪循環を生んでいる。そこで津別町まち・ひと・しごと総合戦略の「津別町における安定した雇用を創出する」「津別町へ新しい人の流れをつくる」の目標を達成するために、外貨獲得による雇用創出と交流人口の拡大に即効性がある観光の推進を図ることが必要である。

具体的には、これまでの行政主導の無料で見ただけの観光だったものを、民間企業の介入により、質の高いガイド・体験型観光という付加価値を生みだし、継続的な収入を獲得する仕組みを実現することを目指す。この付加価値を創出する人材への投資及び観光の産業化こそが町としての生産性向上に繋がり、そのための拠点としてネイチャーセンターの設置・事業展開が必須となる。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分 1 年目	H31 年度 増加分 2 年目	H32 年度 増加分 3 年目	H33 年度 増加分 4 年目	H34 年度 増加分 5 年目	KPI 増加 分の累計
ネイチャーセンター 利用者数 (人)	0	0	500	100	100	100	800
ガイド雇用数 (人)	0	0	1	1	0	0	2
ネイチャーセンター を活用した事業展開 による収入 (千円)	0	0	4,200	2,100	2,100	2,100	10,500

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

質の高い観光サービスを提供できる人材育成を行い、地域の特性に観光を掛け合わせることで生み出す新たな価値を持った観光産業の確立を目指す。それにより交流人口の拡大、地域ブランド化、地域産業担い手育成、雇用の創出、地域事業者の生産性向上へ波及させ、持続可能な観光地域づくりを推進するために、ネイチャーセンターを整備する。さらに、この施設を最大限活用して「自然体験事業」「森林活用事業」「飲食・物販事業」の事業展開を行ない安定した収益の確保を図る。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007（拠点整備）】

① 事業主体

北海道網走郡津別町

② 事業の名称：高付加価値化された観光を活用した人づくり・生産性向上プロジェクト

③ 事業の内容

ネイチャーセンターを整備することにより、質の高い観光サービスを提供できる人材育成を行い、地域の特性に観光を掛け合わせることで生み出す新たな価値を持った観光産業の確立を目指す。それにより交流人口の拡大、地域ブランド化、地域産業担い手育成、雇用の創出、地域事業者の生産性向上へ波及させ、持続可能な観光地域づくりを推進する。加えて地元特産品の販売・製造をできる稼ぐ機能を付加する。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【官民協働】

当該施設を拠点として、質の高い観光サービスを提供できる人材育成を行い、この人材によるガイドングでストーリー性を付け、津別町の基幹産業である農林業・木材製造業を掛け合わせる新しい価値を持った観光の創造を実現する。そのために、官民が協働して人材育成を行い、行政は地域事業者の連携が図れるようマッチングし、民間はこのプログラムの企画・実施をする。このことにより地域一体となって高付加価値化が推進できる。また、持続可能な観光地域づくりのために、公共施設を活用した民間の収益活動を認め、創出した利益を町民へ還元するようなビジネスモデルを構築する。この利益を観光地整備と自然保全の両面に使用して、観光事業者が町全体から応援してもらえる組織を目指す。

【政策間連携】

当該施設を拠点として、質の高い観光サービスを提供できる人材育成を行い、この人材によるガイドングでストーリー性を付け、津別町の基幹産業である農林業・木材製造業を掛け合わせる。具体的には、農家とカフェが地元食材を使ったメニュー開発を行うことや、木材工芸品等の地元特産品を活用した新商品開発・販売、地域産業にガイドがストーリーを付加する体験型ツアーにより町の魅力・産業をPRすることができる。このことにより産業や製品はブランド化され、新たな価値を持った観光になる。さらに、「人づくり」

という点においても、この掛け合わせは、働き手を間近に感じることができ、その仕事への憧れを促し、移住や就職による担い手不足解消にも繋がる。また、町民が地域の魅力を正しく理解し地元を誇りを持つことで地域力が向上する。新たな価値を持った観光により、交流人口は拡大し地域経済が活性化される。また、観光が基軸となることで、異業種の地域事業者が連携され「生産性向上」や「新しい産業の創出」に波及する。

このことから、このプロジェクトは「生産性革命」及び「人づくり革命」を担うものである。

【地域間連携】

ネイチャーセンターを整備予定の上里地区は阿寒摩周国立公園に隣接しており、今後来訪者の増加が期待されている。津別町は阿寒摩周国立公園広域観光協議会（11市町村）に加盟しており、ナショナルパーク化に向けた広域観光の一拠点としての地位を確立し、新たな着地型観光コンテンツ開発に取り組んでいる。（上里地区は国立公園に位置していないため、満喫プロジェクトの整備対象外であるが、国立公園を一望できるビューポイントとして位置付けられている。）また、美幌町、大空町、津別町の3町にて美幌地区3町広域観光協議会を設立しており、この協議会にて連携し屈斜路カルデラ外輪山トレイルルートの開発に取り組んでおり、上里地区がこのルートの拠点の一つとなる。

【自立性】

施設を最大限活用して「自然体験事業」「森林活用事業」「カフェ・物販事業」の事業展開により安定した収益化を図り、事業の更なる拡大と雇用創出を目指す。

①自然体験事業【売上@3,000円×2,000人=6,000千円】

ガイド事業（全天候型プログラム展開）、自然・地域学習事業（産業と掛け合わせた体験型プログラム展開）、イベント・研修・人材育成事業（森林セラピーを活用したMICE誘致等）

②森林活用事業【売上@3,000円×500人=1,500千円】

グランピング事業（アウトドアメーカーとの連携）、森林浴場事業（海水浴場のような森林浴スペース提供）、レンタル事業（アウトドア用品貸出）

③カフェ・物販事業【売上1,500円×2,000人=3,000千円】

カフェ事業（地元農産物を使用した飲食販売、滞在時間・消費額の拡大）、物販事業（農産物・木製品販売、森の香水製造）

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分 1 年目	H31 年度 増加分 2 年目	H32 年度 増加分 3 年目	H33 年度 増加分 4 年目	H34 年度 増加分 5 年目	KPI 増加 分の累計
ネイチャーセンター 利用者数（人）	0	0	500	100	100	100	800
ガイド雇用数（人）	0	0	1	1	0	0	2
ネイチャーセンター を活用した事業展開 による収入（千円）	0	0	4,200	2,100	2,100	2,100	10,500

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

地方創生に係る地方版総合戦略の策定及び検証を目的に設置した「津別町創生総合戦略会議」において、毎年度事業効果の検証と計画の見直しを行う。検証に際しては、①住民満足の視点、②財政的視点、③各事業・活動成果の視点、及び④定着・発展性の視点、の4つの観点から、定量的または定性的な評価を行うこととする。

【外部組織の参画者】

津別町創生総合戦略会議

建設業協会、農業協同組合、商工会、林業協同組合、丸玉木材、網走信金、北見信金、郵便局、社会福祉協議会、津別病院

【検証結果の公表の方法】

検証後、速やかに津別町ホームページ上で公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 78,729 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成35年3月31日（5カ年度）

- ⑨ その他必要な事項
特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 観光プロモーション事業

事業概要：津別町で立ち上がったWEB映像メディア「道東テレビ」での情報発信や、各種イベントを通じ津別町の観光PRを津別観光協会と連携して行い、知名度向上及び来訪者増を図る。

実施主体：津別町

事業期間：平成30年度～平成34年度

(2) 森林セラピー推進事業

事業概要：道内唯一の森林セラピー基地の整備を行い、森林セラピーソサエティと連携して森林セラピーの推進を図り、ヘルスツーリズムの体験型観光開発に取り組む。

実施主体：津別町

事業期間：平成30年度～平成34年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成35年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

【検証方法】

地方創生に係る地方版総合戦略の策定及び検証を目的に設置した「津別町創生総合戦略会議」において、毎年度事業効果の検証と計画の見直しを行う。検証に際しては、①住民満足の見点、②財政的見点、③各事業・活動成果の見点、及び④定着・発展性を見点、の4つの観点から、定量的または定性的な評価を行うこととする。

【外部組織の参画者】

津別町創生総合戦略会議

建設業協会、農業協同組合、商工会、林業協同組合、丸玉木材、網走信金、北見信金、郵便局、社会福祉協議会、津別病院

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30年度 増加分 1年目	H31年度 増加分 2年目	H32年度 増加分 3年目	H33年度 増加分 4年目	H34年度 増加分 5年目	KPI 増加 分の累計
ネイチャーセンター 利用者数 (人)	0	0	500	100	100	100	800
ガイド雇用数 (人)	0	0	1	1	0	0	2
ネイチャーセンター を活用した事業展開 による収入 (千円)	0	0	4,200	2,100	2,100	2,100	10,500

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

検証後、速やかに津別町ホームページ上で公表する。